

# 令和6年度

## 福岡市公共事業再評価等監視委員会

### 《 議 事 要 旨 》

#### 【再評価 2件、事後評価 9件】

##### 【再評価】

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| ① 天神周辺地区大規模雨水処理施設整備事業 | (道路下水道局) ・ ・ 資料1 |
| ② 都市計画道路 千鳥橋唐人町線      | (道路下水道局) ・ ・ 資料2 |

##### 【事後評価】

- |  |                  |
|--|------------------|
| ① 福岡市における安全・安心・快適な暮らしの実現<br>(下水道事業)                | (道路下水道局) ・ ・ 資料3 |
| ② 福岡市における安全・安心・快適な暮らしの実現<br>(防災・安全) (下水道事業)        | (道路下水道局) ・ ・ 資料3 |
| ③ 福岡市における安全・安心・快適な暮らしの実現<br>(防災・安全) (重点計画) (下水道事業) | (道路下水道局) ・ ・ 資料3 |
| ④ 福岡市における良好な水環境の創造                                 | (道路下水道局) ・ ・ 資料3 |
| ⑤ 福岡市における安全・安心・快適な暮らしの実現<br>(防災・安全) (河川事業)         | (道路下水道局) ・ ・ 資料4 |
| ⑥ アイランドシティ地区都市再生整備計画                               | (港湾空港局) ・ ・ 資料5  |
| ⑦ 風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡                                | (住宅都市局) ・ ・ 資料6  |
| ⑧ 安全・安心を支える緑づくり                                    | (住宅都市局) ・ ・ 資料6  |
| ⑨ 福岡市公園施設の長寿命化の推進                                  | (住宅都市局) ・ ・ 資料6  |

## 令和6年度 再評価対象事業

### ① 天神周辺地区大規模雨水処理施設整備事業

#### <再評価に関すること>

(委員)

○ 工事着手時期が当初計画より遅れているが、令和8年度までに完了予定か。

(道路下水道局)

● 現時点では、令和8年度の完了に向けて取り組んでいる。

(委員)

○ 費用効果分析の便益 (B) が2億円減少している理由は何か。

(道路下水道局)

● 浸水被害家屋数等を前回よりも高い精度で算出したことによるものである。

(委員)

○ 雨水整備水準 79.5mm/h とは。

(道路下水道局)

● 市内全域の雨水整備水準は 59.1mm/h としているが、天神周辺地区については、地下空間の利用が進んでいること等から浸水による影響が大きいいため、雨水整備レインボープラン天神において、平成11年6月の実績降雨である 79.5mm/h まで整備水準を強化して浸水対策を進めている。

(委員)

○ 費用効果分析の費用 (C) は建設費 195 億円に維持管理費と改築更新費を合計したもののか。

(道路下水道局)

● そのとおりである。

(委員)

○ 維持管理費が段階的に増加しているのは、整備が完了した幹線の増加によるものか。

(道路下水道局)

● そのとおりである。整備が完了した幹線から、維持管理費を計上しているもの。

## 【結 論】

#### <再評価について>

今回の事業再評価について、今後の対応方針は「事業継続」とする。

## 令和6年度 再評価対象事業

### ② 都市計画道路 千鳥橋唐人町線

#### <再評価に関すること>

(委員)

- 交通事故減少便益について、自転車通行帯が整備されることによる事故の増減も考慮されているのか。

(道路下水道局)

- 自転車通行帯が整備されることによる影響は考慮しておらず、自動車の交通量を根拠に算出している。

(委員)

- 交通事故減少便益が、以前より下がっている理由は何か。

(道路下水道局)

- 現況の道路状況と整備後の道路状況での、環境の変化を踏まえて、一定のエリアで便益を算出するが、令和3年度に那の津大橋の周辺で「築港石城町線」が供用したことにより、整備後の事業効果の出方が薄くなったことで、交通事故減少便益が減少している。

(委員)

- 交通事故減少便益について、整備後は車線数の増加により、交通量も増えることが想定されるので、単純に考えれば事故が増えると思われるが、どのような理由で便益が生まれるのか。

(道路下水道局)

- 整備後は片側3車線になる事で周辺の交通流動に変化が起こり、事故が多かった別の道路を走行していた車両が、整備された当該道路を走行するようになることで、事故が減り便益が生まれる。

(委員)

- 令和2年度時点の道路状況と令和6年度時点の道路状況では、その間に整備された道路があり、その事で道路整備の効果が相対的に減ってしまったという理解で良いのか。走行経費減少便益についても同様の理由で減ったのか。

(道路下水道局)

- そのとおりである。

(委員)

- 走行時間短縮便益が大幅に増えている理由は何か。

(道路下水道局)

- 便益分析の前段として、費用や便益を算出する際には、現在価値での算出を行う事となっており、費用便益分析マニュアルによると、初めに基準年を定め、そこからインフレを考慮して年間4%の価値の減少を見込むこととなっている。走行時間短縮便益については、事業採択時より基準年が後になった事で、便益の割引率が軽減されており、その結果、現在価値としての便益が増加している。

(委員)

- 費用についても費用便益分析マニュアルを基準に評価しているのか。

(道路下水道局)

- そのとおりである。

(委員)

- 今回の再評価では、令和5年12月の費用便益分析マニュアルを用いているが、事業採択時に用いたマニュアルから更新した部分があると思われるが、そのうち便益の増減に影響しているものはあるか。

(道路下水道局)

- マニュアルの更新による変更点として、原単位があるが、これは便益への影響としてはわずかである。

**【結 論】**

**<再評価について>**

今回の事業再評価について、今後の対応方針は「事業継続」とする。

## 令和6年度 事後評価対象事業

- ③ 福岡市における安全・安心・快適な暮らしの実現（下水道事業）
- ④ 福岡市における安全・安心・快適な暮らしの実現（防災・安全）（下水道事業）
- ⑤ 福岡市における安全・安心・快適な暮らしの実現（防災・安全）（重点計画）（下水道事業）
- ⑥ 福岡市における良好な水環境の創造

### <事後評価に関すること>

（委員）

- 「福岡市における安全・安心・快適な暮らしの実現（防災・安全）」指標3 予防保全工事の施設数の考え方は。

（道路下水道局）

- 当初は、既存施設の、経過年数等から改築時期を想定し計画していたものであるが、実施段階で、老朽度調査を行った結果、想定よりも老朽化が進んでいなかったことから、改築時期を適切な時期に先送りしたものの。

（委員）

- 「福岡市における良好な水環境の創造」指標1 再生水供給面積が減少しているが、今後どのように目標を達成していくのか。

（道路下水道局）

- 再生水供給面積とは、再生水を整備する前に指定する区域のことであり、拡大する時期が当初の想定よりも遅れているが、引き続き、まちづくりの進捗に合わせて事業を実施予定である。

### 【結 論】

#### <事後評価について>

事後評価は、適切になされたと判断する。

#### <今後の方針について>

方針に基づき、適切に推進すること。

## 令和6年度 事後評価対象事業

### ⑤ 福岡市における安全・安心・快適な暮らしの実現（防災・安全）（河川事業）

#### <事後評価に関すること>

##### （委員）

- 指標の未達成について、全て“△”と評価しているが、未達成の度合いはそれぞれ異なるため、未達成の度合いを踏まえた多段階評価とできないか検討してほしい。

##### （道路下水道局）

- 今後の参考とさせていただく。

##### （委員）

- 特定構造物改築事業について、事業の実施により施設の寿命はどの程度伸びるのか。

##### （道路下水道局）

- 寿命の延長に関する数値はなく、施設の耐用期間である40年間の期間において、場当たりに施設を更新した場合の事業費と計画的に更新・修繕を行った場合の事業費の差を事業効果とし、事業を実施している。

##### （委員）

- 指標2について、未達成の原因が入札不調によるものとあるが、今後、どのように対応していくのか。

##### （道路下水道局）

- 入札不調が発生した際には、施工業者への聞き取り等を行い原因調査に努めており、今後も設計内容の見直しや発注時期の調整など、入札不調に対する対策を講じていくように考えている。

## 【結 論】

#### <事後評価について>

事後評価は、適切になされたと判断する。

#### <今後の方針について>

方針に基づき、適切に推進すること。

## 令和6年度 事後評価対象事業

### ⑥ アイランドシティ地区都市再生整備計画

#### <事後評価に関すること>

(委員)

- 指標としている「みどり率」について、「第4期住宅街区」の緑地面積はこれから増えていくということでしょうか。

(港湾空港局)

- そのとおりである。

(委員)

- 指標としている「居住人口」や「交通量」は、事業の成果よりも社会経済情勢や人口動態による影響が大きく、事業の成果を適切に計測することが難しくなる恐れがあるため、別の指標を検討したほうがよいと思われる。今回実施している住民アンケートの項目が本事業の目標と整合しており、これらを指標とすることも代替案として考えられるため今後の参考にされたい。

(港湾空港局)

- 承知した。

(委員)

- アンケート結果について、「コミュニティ活動の場」の満足度が低くなっているが、そのような場を全ての人が求めている訳ではなく、不満の割合も低いため、そこまで悲観的に捉える必要はないと思われる。一方、「身近に利用する生活道路」について、13%程度がやや不満、または大変不満と答えており、他の項目に比べて若干割合が高くなっている要因は何が考えられるか。

(港湾空港局)

- 「コミュニティ活動の場」についてはアンケート結果をどのように捉えるか検討していく。「身近に利用する生活道路」については、信号機等の設置が要望されているところがあり、そのような状況を踏まえて不満の割合が若干高くなっていると考えられるため、引き続き、関係機関との調整を行っていきたい。

(委員)

- 事業の終期について、アンケート結果で大変満足という割合が多くなった場合、指標が目標値を達成していなくても事業を終了することがあるのか。

(港湾空港局)

- 本計画で設定している指標は事業の成果を図るものであり、指標の達成状況に関わらず、まちづくりを行う上で事業が必要であれば、継続していく必要があると考えている。

(委員)

○ アイランドシティの公共交通機関は何があるのか。

(港湾空港局)

● アイランドシティの公共交通機関はバスであり、博多や天神までの所要時間は20分から30分程度である。

## 【結 論】

<事後評価について>

事後評価は、適切になされたと判断する。

<今後の方針について>

方針に基づき、適切に推進すること。

## 令和6年度 事後評価対象事業

- ⑦ 風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡
- ⑧ 安全・安心を支える緑づくり
- ⑨ 福岡市公園施設の長寿命化の推進

### <事後評価に関すること>

#### (委員)

- 市民の方に公園の場所を周知することが一番大事だと思う。どこに、どういう公園がある等の広報活動はどのようなことをしているのか。何を見れば市民が分かるのか。

#### (住宅都市局)

- 防災の避難場所という視点において公園内に避難場所であることを示す看板等の設置や、市の防災部局によるハザードマップ等により市民への周知を図っている。

#### (委員)

- 現地には看板があったとしても、それは現地に行かなければ分からない。ホームページ等で「ハザードマップ」を、(公園を)避難箇所という観点で見たら分かるということか。

#### (住宅都市局)

- 避難場所という視点ではそのような周知になっているが、加えて、例えば「市政だより」等で各テーマをもってお知らせをすところ(掲載欄)もあるため、防災というテーマの中で(公園整備等について)触れてもらうことで、広く市民に周知するアプローチも行っている。

#### (委員)

- 遊具の更新等を行っているのであれば、もう少し積極的に広報活動を行い、子どもたちが遊ぶような空間にしていきたい。

#### (住宅都市局)

- 「子育てマップ」の中で遊具のある公園ということでPRしてもらうことがある。また、公園のホームページもあるため、その中で特徴的な公園についてはPRしている。

#### (委員)

- 目標値に対して実績値が達していないということで、ほぼ意識調査による目標値の設定となっている。アンケートの数値は上がっているため、効果があることは分かっているが、そもそも目標値の設定が高すぎるのではないか。

市民全体での意識調査だけでは実際に行った公園事業の効果が見えにくいと思うので、高宮南緑地における整備後の利用者満足度等を参考で掲載すると、事業効果と一体になった、確度の高い評価の認識ができるのではないか。

#### (住宅都市局)

- 高宮南緑地については指定管理者がおり、利用者アンケートもとっているため、今後の評価の参考としたい。

#### (委員)

- 「スポーツをする場や機会が身近にあると感じる市民の割合」について、室見川水系地区と那珂川水系地区で同じ数値が入っているが、全く同じ結果であったということか。

#### (住宅都市局)

- 当該指標の算定根拠となる意識調査は全市的に行っているものであり、今回計画の中では同じ指標を設定しているため、同じ数値となっている。

#### (委員)

- 「②身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合」と「(参考) 身近な公園の緑が豊かであると感じている市民の割合」はよく似ている調査項目であるのに対し、全く異なる調査結果が出ている。②が成果指標になっているが、身近な地域というのが単に山の方に住んでいるのか、都心の方に住んでいるのかを問うている項目にも見受けられるため、参考指標が高い数値となっていることを重視、評価してよいのではないか。
- また、福岡市の意識調査は居住地域の情報も、調査に合わせて聞いているはずなので、事業の評価という意味では現行指標のままでもよいと思うが、居住地等の回答者の特性を踏まえて分析をすることで、今後の方向性の検討に活かすことができるのではないか。

#### (住宅都市局)

- 意識調査については、行政区単位での結果分析が可能であるため、今後の整備計画にはそのような視点を反映させて取り組んでいきたい。

### 【結 論】

#### <事後評価について>

事後評価は、適切になされたと判断する。

#### <今後の方針について>

方針に基づき、適切に推進すること。